

2024 年度 高大接続入試【事前体験型】現代社会学部の講評

2024 年度高大接続入試【事前体験型】現代社会学部においては、2 つの講義を受講した後、2 つの講義で1 つのテーマのレポートを作成してもらいました。

◆事前体験型講義について

<1 コマ目>

1 コマ目の講義は、われわれが日常行なっているコミュニケーションの成り立ちについて考える講義でした。まず、ミツバチのコミュニケーションと手紙をわたす事例を取り上げ、コミュニケーションの特徴について考えてもらいました。そのうえで、コミュニケーションの定義を試み、伝達と情報と理解の区別としてコミュニケーションを定義できることを示しました。次に、一般に相互知識問題と呼ばれるコミュニケーションのパラドクスを紹介し、コミュニケーションを心と心の通いあいと考えると、コミュニケーションは不可能であるということを示しました。最後に、J・L・オースティンの発話行為論を紹介し、言葉を用いることが何らかの行為を行うことでもあり、コミュニケーションが心の問題であるよりも行為の問題であることを示しました。事例を使って自分の腑に落ちる話になるように心がけて講義しました。

<2 コマ目>

2 コマ目の講義では、「人生 100 年時代を生きる」というテーマで講義を行いました。日本は世界的にも長寿の国であり、2007 年に日本で生まれた子どもの半数が 107 歳より生きるという推計も出されています（厚生労働省：人生 100 年時代構想会議中間報告より）。

本講義では、①人の一生をどうとらえるか、②老い (Aging) にともなう変化、③人生 100 年時代、どう生きるかの 3 つで展開しました。①では、生命・生活・人生という意味合いを兼ね備えた“LIFE”をキー概念とし、一人の人の人生を、その人が生きた時代とともに紹介することで、ひとつの“LIFE”の実像を示しました。②では、高齢期のみならず、加齢に伴う変化として、主に身体的な変化・精神的な変化、そして人口減少・少子高齢社会について説明しました。最後に、③では、20 年後、50 年後の人口推計や予測されている社会状況を示したうえで、これからの人生 100 年時代をどう生きるかを自分事として考えられることを想定して講義を終えました。

◆レポート課題について

レポート課題は、それぞれの講義内容をもとに 2 つの課題が設定されました。レポート課題は、それぞれの講義内容をもとに 2 つの課題が設定されました。1 コマ目のレポート課題は、講義内容をふまえて、コミュニケーションの定義において伝達と情報を区別する必要があるのはなぜかを問うものでした。伝達だけでコミュニケーションが成り立つケースをしっかりと挙げられているものもありましたが、相互知識問題を挙げているものもあり、正解の回答とそうでない回答との間にばらつきがみられました。

2コマ目のレポートでは、人生100年時代を生きるこれからの社会について、高校生のいま、自分事として構想し、論じてもらうことを意図しました。全体として、授業に対する真面目な受講ぶりと同様、努力のあとが見られました。